52 週スタディ

ハイデルベルク教理問答

金洪晩 著者

第一週

質問１. 生きるにも死ぬにも、あなたの唯一の慰めは何ですか。

答えⅠ 生きるにも死ぬにも、[01]私自身が私の所有ではなく、[02]体も霊魂もすべてが私の真実な救い主であるイエス・キリストのものです。[03]キリストは、ご自分の尊い血を持って私のすべての罪の代価を支払ってくださり、[04]私を悪魔の権威から救ってくださいました。[05]また、キリストは私を保たせ、私の天の御父の御心なしでは、[06]私の髪の毛一つも落ちないようになさいます。[07]実に、万事が私の救いの助けとなるようになさいます。[08]そしてまた、キリストは、聖霊によって私の永遠の命を確信させてくださり、[09]今から後、私をも真実の中で、自発的に主のために生きるように造ってくださるのです。[10]

❶ 初めの質問は、ハイデルベルク教理問答書の全体大義を語ろうとする質問です。つまり、人生において唯一の慰めを得られる道は、キリスト者になることだと語るための質問です。そうだとすれば、なぜ、唯一の慰めが必要なののでしょうか。人間は、罪が世界に入って来た以降、罪によって、悲惨な生活に屈服させられて生きています（創 3:16-19)。苦しみ、嘆き、後悔に抑圧された

01　ロマ書 14:7-9.

02　Ⅰコリント 6:19-20.

03　Ⅰコリント 3:23、テトス 2:24.

04　Ⅰペテロ 1:18-19、Ⅰヨハネ 1:7, 2:2.

05　ヨハネの福音 8:34-36、ヘブル書 2:14-15、Ⅰヨハネ 3:8.

06　マタイの福音 10:29-31、ルカ 21:16-18.

07　ヨハネの福音 6:39-40, 10:27-30、Ⅱテサロニケ 3:3、Ⅰペテロ 1:5.

08　ロマ書 8:28.

09　ロマ書 8:15-16、Ⅱコリント 1:21-22 ; 5:5、エペソ 1:13-14.

10　ロマ書 8:14.

まま、死の恐れの中で生きています（ヨブ 18:14、ヘブル 2:15,10:27)。また、審判の恐れの中に置かれています。従って、体と霊魂全体が苦しみを受けています。なぜなら、体と霊魂は一緒に合体されているからです。このような悲惨は、罪による惨めさです。それゆえ、このような事から克服できるようにしてくれる慰めが私たちに必要です（イザヤ 38:17、詩 25:17,116:3)。その慰めは、この地においても、そして死に直面する時にも必要です（創 5:29、イザヤ 38:17、詩 25:17,116:3)。この慰めは、私たちの生活を動かせる力となります。

❷ 間違った慰めを探す場合もあります。人生は、圧迫と悲しみ、苦しみから抜け出たいために色々な慰めの方法を探し求めます。富と派手な生活を通して慰めを得ようとします（ヨブ 31:24、ルカ 16:19)。しかし、いくら富を蓄積しても、それを通して楽しみを味わったとしても、死を迎えれば、自分の持っている富を通しては、それ以上、慰めは得られません（ルカ 12:19-20,16:22)。

一方、肉体の健康を通して慰めを追及します。健康を最高の慰めの手段としようとします。しかし、人生は草のようで、結局、枯れてしまいます（詩 90:6)。また、多くの人は、世的な楽しみを通して慰めを得ようとします。例えば、世的な娯楽に没頭しようと、お酒に酔い、放蕩な生活を通して苦しみを振り落とし、慰めを得ようとします（イザヤ 22:13-14、ルカ 6:25)。このようなことからは、真の慰めは受けられず、お酒と娯楽から目覚めた後には、余計に、より大きな虚無感だけが残ります。

人生たちの、もう一つの間違った慰めとは、人間を通して慰めを得ようとします。ヨブを慰めるために来た友だちは、ますますヨブを苦しめました。人を通して慰めを得ようとすることは、却って、苦しみと失望を加重させる時が多いのです（ヨブ 16:2)。勿論、品格を持ち、悪に対して対抗しながら、最大限に、

善を行おうと努力する場合もあります。しかし、人生の無能さのゆえに、慰めのどころか、さらに大きな虚無と挫折に陥ったりします。このように、この地での臨時的なものでは真の慰めを受けることはできず、空しく空しいものです（伝道書 2:11)。このようなものは、すべてが、永遠に続くものではないからです。

❸ 人生に与えるべき慰めが、本物の慰めになろうとすれば、すべての場合に適用されるべきです。どんな状況の場合でも、生活に適用されて慰められるべきです。それだけが唯一で、真の慰めとなるのです。それは、キリストの尊い血によって贖われることです（Ⅰペテロ 1:18-19)。そして、キリストは私たちの主となり、私たちはその所有物となるのです。

キリストは、また、私たちをご自分の所有物として助け、保護なさいます。キリストは私たちを治めるでしょう。信者に病のような、多くの困難と苦しみがあろうとも、そのようなことでは、私たちを倒せません。むしろキリストは、私たちの救いのために益になるように働かれます（ヨハネ 10:28)。それゆえキリストは、私たちのすべての不安と思い煩いとを静めさせ、真の慰めを与えられます（Ⅰペテロ 2:9、ロマ 14:8)。私たちはキリストの愛と力とに安住することで、慰めを得るのです。

❹ 人は、罪によって、自分自身を自分の所有と考えます。それで、利己的な目的と目標を立て、情欲の中で生きて行きます。このような人は、神から遠く離れていて、神をその心に置くことを嫌います。自分のために他人の物を奪ったりも騙したりもします。世は、このような人たちによって罪と悪が満ちていて、その罪と悪の結果が自分に帰って来たりもします。それゆえ自分自ら慰めようとしても、慰めを得られないのです。

自分自身を自分の物として生きて行く生活には、希望がありません。カインは、自分自ら主人となりました（創 4:7-8、13)。エサウも同じです（ヘブル 12:17)。サウルもやはり、自分だけのための人生を生きました（Ｉサムエル 15:19, 23, 31:4)。このような人生は、思い煩いがますます多く増えてきて、問題も余計に拡散され、決して慰めを得られないのです。

ところが神さまは、ご自分の選んだ民のためにキリストを遣わし、血を流して死なせ、民の罪をキリストに負わせました。そして、血によって贖い、キリストの所有物となるようにされました。従って、選ばれた罪人はキリストの血を通して赦しを得られます。それからは、自分の生活を自分で主管するのではなく、主の所有物として、主に委託しなければならない存在となりました（イザヤ 44:5)。罪と虚無なことを脱ぎ捨て、今から、キリストにあって真の慰めを得られるようになりました。(マタイ 11:28-29)。主が私を顧みてくださるので、すべての思い煩いは静まるはずです。これだけが、真の安息を与えられます（Ｉペテロ 2:9、ロマ 14:8)。

❺ 悪魔と罪の支配から解放されるというのは、私たちにとって真の慰めとなります。悪魔は人を、罪から抜け出られないようにさせ、続けて罪を犯すようにさせながら、希望を消滅させます。悪魔は独裁者のように罪人を主管し、抜け出られないようにします。罪人は悪魔の手に引きずられながら生きるしかありません。最も、人の本性の中に深く居座っている罪性が、罪の甘味のゆえに罪から離れられないようにさせます。悪魔の支配と、私たちのうちにある罪性は、人間を通しては、どのような慰めも受けられない状況に侵させてしまいます。

ところがキリストは、選んだ罪人を悪魔の権威から救い出しました（Ⅱテモテ

2:26)。罪からの救いを通して、私たちは悪魔の権威から解放されます（Ｉヨハネ 3:8、エペソ 2:3、ロマ 6:23、ヘブル 2:14-15)。キリストの血によって私たちを贖ったということは、私たちが罪の奴隷から自由になったということです。さらにキリストは、選んだ聖徒に聖霊を遣わして、罪性と肉とに勝てるようにされました（ロマ 8:2)。従って、キリストにあってのみ、罪の支配から解放され、そこでだけ真の慰めを得られるのです。

❻ 保たれるという恵みは、私たちに慰めとなります。人生は数多くの困難と危険な出来事と、苦しみの中で生きて行きます。それで人生は思い煩い、心配しがら悲しみます。普通の人生には、食べて、着て、生きることで思い煩い、心配事が絶えないです。ますます人生は財産を得ようとして集めるために、相当な悩みと自己の思い煩いの中で生きて行きます。

しかし、キリストは選んだ民を救い、保存なさいます。天の父の御心なくしては、私たちの髪の毛一つも落ちないのです。私たち自身でも髪の毛が落ちるのを認識できない時が多いのに、天の父は私たちをこれほどまで顧み、保存なさいます。ダニエルは獅子の穴でも体に傷一つなく（ダニエル 6 章)、パウロは、マムシに噛まれたのにも害を受けなかったのです（使徒 28 章)。行くべき道を分からなかったヤコブを導かれ（創 32:10)、将来が真っ暗だったヨセフを導かれ（創 50:20)、敵に囲まれて命が危なかったダビデが、「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう」（詩 118:17）と賛美できるようにさせたのは、すべて神の保存の恵みです。

❼ 救いの確信を得るのは、私たちに慰めになります。私たち自身の救いについて確信を得られないのなら、大変、不安になるしかありません。私たちの自

らの想像力や感情などは、私たちに助けを与えられません。従って、聖霊の内的な証拠 inward Witness of the Holy Spirit を通して、私たちが神の選ばれた子供という確信を持てるようにさせます（Ⅱコリント 1:20-23、エペソ 1:13-14, 4:30)。聖霊さまは、私たちが神の子供であることを証しし（ロマ 8:16)、神の愛が私たちに注がれていることを確認させます（ロマ 5:5)。そして、永遠の命に対する確信を与えます（エペソ 1:13-14)。従って、キリストに属しているということは、この地において、生きるにも死ぬにも全き慰めとなります。

❽ 主のために生きるようにさせるのは、私たちの慰めとなります。人生の目的をどこに置くのか。この地にある一時的なところに置くと、慰めのどころか、失望に終わってしまいます。すべてが一次的で、臨時的だからです。人生自体に目的を置けば、結局、虚無で終わります。人生が無能で、どんなことも成し遂げられない、もし、何かを成し遂げたとしても、死が、すべてを終わらせてしまうからです。

人生の正しい目的と目標は、主のために生きることです。主のために生きるとは、自分を否定し、キリストの働きのために生きることです（ピリピ 2:30)。そして将来、主に会えることを渇望しながら、清く生きることです（ヘブル 12:14)。このような生活は、神の戒めを守るのに素早く（詩 119:60)、完全さを追及する生活です（ピリピ 3:12-14)。このように主のために生きる時、後悔もなく、空しさもありません。これこそ、一番貴重なものを得た満足と、慰めがあふれる生活です（ピリピ 3:8)。

❾ 従って、自分の満足を追求しながら、人々から歓声を受け、多くの財物を得て、華麗な家で美しい服を着て宝石で身を包み、美味しい御馳走で自分自身

を耽溺させながら生きる者たちは、結局、自分の命を失うことになるでしょう。無益なことで自分の心を楽しませて、怠けた考えによって腐敗された自分の心に従って、罪と悪の中で生きた者は、必ず滅びるでしょう（箴 2:14)。真の神の民は、自己中心で幻に従って生きる者たちではありません。自分の心を成就させるために生きる人生でもありません。キリストに属する者は、自分が楽しんでいた罪から離れ、自分自身を完全に、そして喜んで、キリストに捧げた者です。

質問２．あなたが、このような慰めの中で生き、幸いな死を迎えるために、必ず、知らなければならないのは、何ですか。

答えⅠ　三つです。第一に、どれほど自分の罪と悲惨が大きいかを知ることです。[01] 第二に、私は、私のすべての罪と悲惨から、どのように救われたのかを知ることです。[02] 第三に、このような救いに対して、私は神にどのように感謝すべきかを知ることです。[03]

❶ 問答書の、質問１は、キリストの中にある、救いと永遠の命を待ち望みなさいでした。質問２は、救いの賜物を味わうためには、必ず知っていなければならない三つの知識、あるいは、三段階の知識を語るためです。これは、聖書の内容を要約したものとして、一方、ハイデルベルク教理問答書全体構造を表わすものです。

01　ロマ 3:9-10、Ⅰヨハネ 1:10。

02　ヨハネ 17:3、使徒 4:12, 10:43

03　マタイ 5:16、ロマ 6:13、エペソ 5:8-10、Ⅰペテロ 2:9-10

この三つの知識は、ローマ 7 章 24-25 節で発見することができ、ローマ書全体構造として見ることができます。つまり、ローマ書 1 章 18 節から 3 章 21 節までは、異邦人とユダヤ人、皆が、罪に定められた罪人として悲惨な状態を説明していて、3 章 21 節から 11 章 36 節までは、キリストによる贖いについて教えています。そして、12 章 1 節から 16 章 27 節までは、キリスト者が生活を通して感謝することについて、勧告として見ることができます。[04]

❷ 第一の部分は、自分の罪がどれほど大きいかを見なければならない、罪による自分の悲惨さについて苦しみを感じなければならないということです。病気にかかった人が、自分の病気による苦しみを感じなければ、医者を探し求めないでしょう（マルコ 2:17)。罪は、最も重く、深刻な病気と同じで、体と霊魂を完全に壊します。このような、自分の罪による重圧感を感じなければ、その人は救いを渇望しないでしょう。

それゆえ、霊魂が救いを渇望するためには、先ず自分の罪と、その悲惨さについて悟らなければならず、罪と悲惨から救われることを渇望しなければなりません（エレミヤ 31:18-19、詩 51:3－5、マタイ 5:4、Ⅱコリント 7:9-11)。家を出た放蕩息子が（ルカ 15 章）自分の悲惨さを徹底して味わった後に、自分の家の豊かさと大切さを悟った上で立ち帰るようになりました。それゆえ、ハイデルベルク教理問答書の初めの部分に含まれている目標は、罪に対する覚醒を起こさせ、救いを渇望するようにすることです（マタイ 9:12、エレミヤ 3:13)。

ローマ書でも、罪に対する覚醒は、律法を通して起こると語っています（ロマ 3:19, 7:13)。律法を通して罪人は、自分の罪を具体的に悟るようになり、罪に対する神の審判を悟るようになります。そうなれば、自分が赦しを受けるべき必要性を切実に悟って、救いを渇望するようになるのです。

❸ 第二の部分は、自分の罪と悲惨さから、どうすれば救いを受けられるかを必ず知っていなければならないということです。先ず神さまは、恵み契約の中で、罪人を赦すためにキリストを備えられたことを知ることです。また、キリストは罪人を贖うために、何を行ったのかを知ることです。このようにキリストを知る知識によってのみ、聖霊の御業によって、キリストが私を救うのに十分であることと、また、みずから私たちを救おうとなさることを、理解するようになります（イザヤ 53:11)。

このようにキリストを知るようになり、悟ることによって、罪人はキリストに行きます。そして、キリストをつかむようになり、キリストを所有するようになりますが、これが信仰です。例えば、ルカの福音書 7 章 37-38 節で、罪人である一人の女が、香油を入れたツボを持ってイエスさまの所に来ます。その女は、イエスさまのうしろに行って、その足のそばに立ち、涙で足をぬらし始め、自分の髪の毛で拭い、その足に口づけしながら香油を注ぎます。

この女のこのような行動は、即ち、自分の罪に対して胸を裂き、赦しを求めるため、イエスさまの前に屈服しているのは、信仰から出たことです。それでイエスさまは、その女に罪の赦しを宣言なさいます（ルカ 7:48)。このようにキリストに出て行く時、真の信仰は、キリストに近づかないように妨害するものをも、克服させます。

マタイの福音書 9 章 27 節以下を見ると、二人の盲人がイエスさまについて来て、結局、イエスさまのおられる家にまでついて入ります。その過程は二人の盲人にとって困難なことでしたが、彼らは、その障害を克服しました。マルコの福音書 2 章 1 節以下で、中風の患者の友達が屋根に穴を開け、中風の患者の寝床をつり降ろし、イエスさまの所まで至ったことも、やはり、信仰によって妨害物を克服した事例です。キリストの貴重さを悟るようになれば、このよう

にキリストをつかむようになるでしょう。これが真の信仰です。自分の悲惨さを徹底して悟った者が、キリストの大切さを知るようになりながら経験する変化です。

❹ 第三の部分は、このように救いを体験したなら、神の無限なる愛と恵みについて、当然、感謝するようになることを説明します。自分には、このような救いの恵みを味わえる、どのような資格も価値もないにもかかわらず、赦された恵みに感謝しながら、喜ぶことでしょう。ローマ書 7 章 24-25 節は、次のように感謝を叫んでいます。「私は、ほんとうに惨めな人間です。だれがこの死の体から、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。」

神に感謝するとは、私たち自身を神に屈服させ、奉仕をし、心を尽くし、神に賛美と栄光を帰するようになることです（詩 103, 104 篇）。そして、私自身を神の義の兵器として捧げ、神の戒めに従って守ることです。勿論、この時、感謝する心のゆえに神の戒めは重荷とはならず、楽しみとなります（Ⅰヨハネ 5:3）。

❺ しかし、恵み、あるいは救いの知識が不足の場合は、救いが受けられません。カイン（創 4:13）の場合は、罪に対する神の叱責と審判の宣告を受けながらも、自分の罪について軽く考え、むしろ、神の審判は重すぎると不平をつぶやき、結局、神の御前から離れ去って行きました（創 4:16）。イスカリオテ・ユダ（マタイ 27:3-4）の場合も、自分の罪について悟ったことで後悔し、失望に陥りましたが、主に赦しは求めませんでした。恵みの原理を自分に適用しなかった彼は、結局、自分の強情のまま滅びました（使徒 1:26）。

それゆえ、真の救いの恵みは、必ず、自分自身の罪人となった状態を知ると

ころから始まります。それから福音を通して、神の赦しと恵みの原理を悟るようになります。従って、罪人には先ず、律法を知るようにさせることです。律法を通して、そして聖霊の御業によって、罪人は、自分が神の律法を破ったことを悟り、罪人であることを認めるようになります。

このようにして自分が罪人であると悟った罪人は、審判から免れるために赦しを求めるようになります。キリストにあって、神が備えてくださった赦しの恵みを悟ることによって、キリストに出て来るようになり、キリストをつかむようになります、これが信仰です。そして、信仰によってキリストと結び合わされ、キリストにあって神が備えられた恩恵を味わうようになります。赦しを受け、義と認められ、聖霊を受けます。

聖霊を受けた聖徒は、これから、その聖霊によって戒めを守るようになります（ロマ 8:4)。その戒めは、神を愛するゆえ、感謝するゆえ守るのです（Ｉヨハネ 5:3)。従って、神の民になるためには、必ず、このような知識があることと、また、聖霊による体験がなければなりません。

❻ そうだとすれば、あなたの救いを、どのように確認して見ることができますか。つまり、あなたがキリストの所有であるのかを、どのようにして確認することができますか。あなたの対話の中で、主をどれほど賛美しているのかを確認してみなさい（Ｉコリント 6:18-19)。そして、あなたが、自分をどれだけ否定しているのかを確認してみなさい（マタイ 16:24)。生活の中で、あなたは、どのような慰めを求め、待ち望んでいるのかを点検してみなさい。苦しみと困難の中で失望しているのか、そうでなければ、主の顧みを待ち受けているのかを確認してみなさい（詩 37:5、Ｉペテロ 4:19, 5:7)。そしてあなたの心に、神のみことばによって聖霊さまが証しされることについて、確信を持っているのかどう

かを確認してみなさい。また、主の御心を実行するために、どれほど飢え渇き、熱心を抱いているのかを確認してみなさい（テトス 2:4)。